

ウメボシ イソギンチャク

分類：イソギンチャク目 ツボミイソギンチャク科 (花虫綱 六放サンゴ亜綱)
 学名：Actinia equina
 英名：

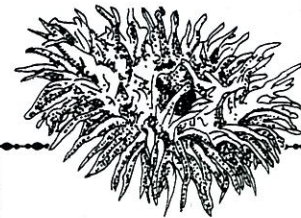
伊豆半島以南から暖海にかけての低潮線上の岩石や礫や防波堤などに生息する。良く発達した足盤で付着するが、這うようにゆっくり移動することもある。触手は鮮やかな朱赤色で褐色や緑色に変色することもある。大気にさらされると、体を収縮させて胃腔中の海水をはきだし触手を体内部にひっ込めて赤いかたまりとなるので、フランスでは海のトマトとも呼ぶ。卵生で繁殖するが卵は体内で孵化し、小さな卵形や、梨形の幼生時代を経て着生するが、このとき口、周辺の触手が生え始める。



ウメボシイソギンチャク



ヤッコカンザシの一種
Pomatoceros triqueter



ヤドカリ イソギンチャク

分類：イソギンチャク目 ツボミイソギンチャク科 (花虫綱 六放サンゴ亜綱)
 学名：Calliactis parasitica
 英名：

伊豆半島以南の暖海の水深10~40m位の岩礁地帯に普通に見られる。単独性で群生はせず、固い骨格はもっていない。短い口唇触手と、その外側の縁触手とに分れ二列に並び、縁触手は長くやや尖った紅紫色をおびた青色で縁触手の数は36本となっている。ヨコスジヤドカリ *Dardanus arrosor*、メダマヨコバサミ *Paguristes oculatus* などのヤドカリの入った巻貝の殻を被うように付着し共生の利害関係は明らかでない。



ヤドカリイソギンチャク



チチュウカイ ハナギンチャク
Cerianthus membranaceus

